



校長室だより

令和8年度

9月4日

NO. 17

自分で味わえない世界を味わう…、実際に感じられない世界で感じる…。

「大事なものは凹んだ時どのように対応するかだ。自暴自棄になるのか、七転び八起ききの精神でまた頑張れるのかによって、その後の道は分かれる。」

『真夜中のデイズニーで考えた幸せに働く未来』

(河出書房新書) 鎌田 洋著



2学期はじめのさえずりさんの読み聞かせ。いろんな本の世界に触れることができました。

土のような乾いた色をしたアマガエルが、水を求めてジャンプします。九月に入り朝晩は涼しさを感じることもありますが、秦梨の山々や季節にも、まだ夏の色が残ります。地球温暖化は猛威を振るい、それを実感させられる日々が各地で続きます。

夏休みのため約二か月ぶりとなったさえずりさんによる読み聞かせが、二日に行われました。読み聞かせの本の中には、お月さんやアート等、ちよつと早い秋を味わわせてくれるものもありました。一・二年生は、大人気シリーズ「大ピンチずかん」を読んでもらいました。誰にでもある「大ピンチ」、実際に自分で経験すると恥ずかしかったり、焦ったりするものですが、こうした絵本での失敗は楽しく見ることが出来ます。と同時に、大人ならこんな失敗はしない、これくらいの失敗は大したことないと思えます。けれどこうしたピンチは、経験してこそ自分事として、成長の糧となります。失敗や課題に向き合うことで、対応できる力は磨かれるのかもしれない。

先日、先生たちの研修の場で、中学生への読み聞かせの効果について、講師の方が触れられました。実際に、大人になって絵本などを読み返すことで違う発見があるという体験も、多く聞かれます。成長に伴う感じ方、捉え方は、日々変わります。脳科学でも「変化は進化」だと聞きます。さらに多様化の時代、本やドラマ、映画など見ているだけでも、現実ではないけれどドキドキ、わくわくする世界に連れて行ってくれます。こうした多様な世界に触れること、そうした世界で心を動かすことも、心のアップデートにつながります。「ピンチはチャンス」、身の回りのピンチを心の成長に、チャンスに変えられる秦梨っ子になってくれることを願います。

【9月2日のさえずりさんの読み聞かせ本】1、2年生「大ピンチずかん」(鈴木のりたけ著)、「ぶたのたね」(佐々木マキ作)、「あらまっ!」(ケイト・ラム文)、「ぼうさいクイズ簡易版」(むすびえ編) 3、4年生「きつねのなきいろ」(渋谷勲脚本)、「てんてんきょうだいとまるねえちゃん」(山田慶太文)、「ミッフィーとはじめてのアート」(ディック・ブルーナ絵) 5年「おべんとう」(小西英子作)、「月夜のおおさわぎ」(九州国立博物館文・原案)、「体験!子ども寄席3 こども新、はてな新 金明竹」(古今亭菊千代文) 6年「ぼんぼん山の月」(あまんきみこ文)、「イライラのあらし」(ルイズ・グレッグ作)